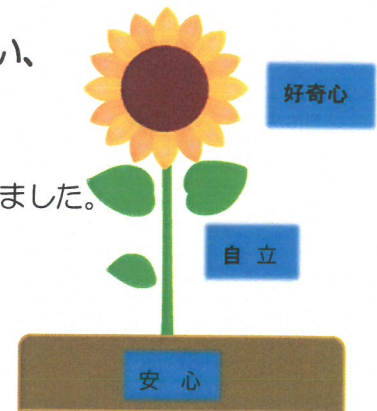


2020年度 港南台保育園 自己評価

港南台保育園は今年度「安心の土台の上に、生活が自立に向かい、好奇心の花が咲く保育をしよう」をスローガンに、7つの目標をたて運営に取り組んできました。

その一つ一つについて職員全員で振り返りをし、次年度の課題を探りました。



安心のために

1 保育のプロとして、子どもに対して
保護者に対して、思いやりと信頼に
満ちた言葉かけをする。

感染対策のためお願いしなければいけないことと、子どもや保護者の気持ちに寄り添うことの両立に難しさを感じた一年でした。よかれと思って伝えたことが、信頼とかけ離れてしまったこともありました。親しみを持って話しているつもりで、言葉が雑になっていることがあるのではないかとこの反省もありました。



相手を尊重し思いやりを持つためには、まず相手を理解しようとするのが大切です。今年はコロナ禍での困り感について保護者アンケートを実施し、園内研修でそれについて考えることをしましたが、引き続き保育士一人ひとりが相手を理解し尊重する言葉かけができるよう研鑽を積んでいきたいと思えます。

2 衛生的な環境で健康に過ごせるようにする。

感染症対策のため、掃除、消毒、換気等さまざまに強化をしました。子どもたちの手洗い指導も例年以上に力を入れて取り組み、意識を高めました。その成果か、例年より感染症を少なく抑えることができました。引き続き子どもも職員も健康で過ごせる環境づくりに努めていきます。



自立のために

3 発達を見る目を養い、一人ひとりの段階と主体性を尊重した保育をする。

子どもの日々の姿からどのような成長を読み取るか、担任間で時間を決めて話し合ったり、毎月のカリキュラム会議で意見交換をしました。そしてその気づきを適切な援助につなげるため、「育児行為マニュアル」の見直しプロジェクトを発足させました。もともとあったマニュアルの行為にどういう意味があるのか、それが子どもの主体性を尊重する動きになっているのか、職員同士が活発に



意見を出し合い、マニュアルの更新をしました。



今後は話し合いの成果を実践できるよう努めるとともに、よりよい保育のためマニュアルのアップデートを続けていきたいと思えます。

4 結果を急がない。信じて待つ保育をする。

子ども一人ひとりの成長を丁寧に捉え、育つ力を信じて見守る保育をするため、経過記録（成長の記録）の書き方の見直しと読み取り方の共通理解を目指したプロジェクトを行いました。それによって子どものありのままの姿を受け止められた、頑張る過程を認めじっくりと取り組める環境を作れたという感想があった一方で、到達度を意識しすぎるあまり無理をさせた場面があったのではないかという反省もありました。集団の中でも一人ひとりを大切に保育のあり方を、今後も探っていきたいと思います。



好奇心のために

5 自然の中で“感じる”経験を大切にする。

今年の特に前半は、緊急事態宣言を受け散歩を控えていましたが、樹木に囲まれた園庭のおかげで子どもたちは季節の花や栽培した野菜の生育に目を見張り、小さな虫を発見しては観察して楽しむことができました。また、ゆず湯ごっこや、氷遊び、寒天ゼリーづくりなどの遊びの中でも“感じる”経験ができ、工夫次第で経験は広がると気づきました。まずは保育士自らが事象の不思議に興味を持ち、知識を深め“感じる”環境を準備できるようになっていきたいと思いました。



6 試行錯誤できる遊びの環境を作る。



登園自粛要請期間中、職員が自主的に玩具を手作りし、お互いに発表し合う機会を設けました。様々な遊び方ができる素材的な玩具が多く作られ、保育の中で子どもたちが自由に楽しむ姿が見られました。幼児クラスでは、子どもが自分で作ったもので遊ぶ姿も多くみられました。幼児期は主体的に自由な発想で遊ぶ経験から学びが広がります。子どもの創造性を育むごっこ遊び



など、試行錯誤できる遊びの環境をもっともっと充実させていくことがこれからも課題です。

実現のために

7 職員同士が学び合い、協働する。

育児行為マニュアル見直しのプロジェクト等を通して、クラスやキャリアを越えて意見を交わし合う機会が増えました。お互いの考えを知ることで、少しずつ同じ方向を向いて仕事ができるようになってきた手ごたえをつかんでいます。また、栄養士や看護師が保育に参加したり園内研修を担うことで、専門性を生かすことが少しずつできています。今後は皆で考えたこと、決めたことを実践し、それを振り返ってまた計画を更新し・・・と、PDCAサイクルをしっかりと回していくことが目標です。



感染症対策で生活が一変した今年度、コミュニケーションや情報発信についても課題が生まれました。いろいろな方のご意見に耳を傾けながら、子どもも保護者も職員も、皆が安心して楽しく生活できる保育園作りに今後も努めていきます。